

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立足立小学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）		
2 実施対象者 (学年・人数)	北九州市立足立小学校 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">I, III 第5・6学年児童 (61名)</td> <td style="text-align: center;">III 第2学年1組 児童(33名)</td> </tr> </table>	I, III 第5・6学年児童 (61名)	III 第2学年1組 児童(33名)
I, III 第5・6学年児童 (61名)	III 第2学年1組 児童(33名)		
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(道徳科)(総合的な学習の時間) ② 行事名( ) ③ その他( ) (2) 地域における活動 ① イベント名( ) ② その他( )		
4 目標 (ねらい)	① 障害者への理解を深め、共に生きていくことについて考えを深める。 ② これからの自分のよりよい生き方や生活の仕方について考えを深める。		
5 取組内容	今年度は、2・6年生の道徳科、5年生の総合的な学習の時間の単元を活用した。 1 2年生の実践 ○ 道徳科の内容項目「個性の伸長」の学習の導入で、東京パラリンピックをリアルタイムで視聴し、障害をもっている方々について考えるきっかけとした。 ○ パラリンピックを視聴する中で、子ども達は、「目が見えなくてかわいそう。」「手がなくて痛そう。」など、悲観的な意見が多かった。自分たちにも得意なこと、不得意なこと、できることできないことがあるけど、「本当にかわいそうなの。」と、問いかけ、障害をもっていることについて子ども達に話し合いの場を設定した。 ○ 道徳科の授業後に、車いすに乗る体験活動の時間を設定した。車いす体験では、車いすを自分で操縦して段差や坂道を乗り越えたり、車いすに乗っている人を後ろのハンドルをもって手で操縦したりしながら活動した。		



## 2 5年生の実践

- パラリンピックについて話し合い、障害をもった方々のスポーツの祭典であることについて知り、自分の課題を設定した。
- 本やインターネットを使ってパラリンピックについて調べ、その意義について考えた。調べたことを交流し、さらに理解を深めるようにした。
- 調べ活動を進めていくうちに、児童の中から実際にパラリンピアンの方と会ってみたい、質問してみたいという気持ちをもつ児童が増えた。そのため、「あすチャレ！ジュニアアカデミー」でパラリンピアンの方との交流をするように計画した。
- 伊吹祐輔さんとのオンライン交流では、障害とは何なのか、今のコロナ禍の状況と関連させながら考えたり、伊吹さんの幼少期からのエピソードや日々の困難をどのように工夫して生活しているのかについての話を聞いたりして、交流を行った。



## 3 6年生の実践

- 道徳科の内容項目「希望と勇気、努力と強い意志」の学習を「あすチャレ！ジュニアアカデミー」を通して行った。パラ・パワーリフティング選手の山本恵理さんのお話を聞いて、自分の生き方について考えを深めた。
- 山本さんは、常に目標をもち、生きてきたことや世界の壁は高いけれども、パラリンピックに出場することを諦めず、日々努力を続けているということについての話を真剣に聞いていた。



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2年生「道徳科」で行った学習を通して、子ども達は、障害をもっているから可哀そうではなく、自分たちにもできることとできないことがあるように、障害も個性の一つであることに気付くことができた。また、車いす体験を設定したことで、子ども達は車いすを操縦することの難しさや大変さを感じ、自分達には不自由さはないが、障害をもっている方々は日々の生活の中で不自由さを感じていることが多いと実感することができた。</li> <li>○ 5年生「総合的な学習の時間」で行った、あすチャレ！ジュニアアカデミーでの、伊吹祐輔さんとの交流を通して、子ども達は、障害をもっている方が様々な工夫をしながら日々の生活を送っていることや実際の車いすユーザーである伊吹さんの幼少期の話や普段の生活の話聞くことで、自分たちが調べたこと以上に、障害について深く理解することができていた。振り返りでは、「私が障害をもっていたら、自分さえも受け入れられないと思うけど、パラリンピックの選手たちは、自分の体をプラスにとらえ、自分の可能性を受け止めていてすごいと思いました。努力と工夫を重ねることの素晴らしさが分かりました。」「障害のある人に関わりがなく、あまりパラリンピックにも興味がなかったのですが、お話を聞いて、パラリンピックや障害のある方に興味がわいてきました。自分はすぐ諦める癖があるけど、直すようにしていきたいです。」等、パラリンピアンへの尊敬の念や障害をもっている方々に対しての思いや考えの変容も見ることができ、より深い障害者理解につながった。</li> <li>○ 6年生「道徳科」で行った、あすチャレ！ジュニアアカデミーでの子ども達の振り返りでは、「話を聞いて、できないことがあっても絶対にあきらめないで、目標を立てて、その目標が報われるまで努力し続けようと思いました。」「心に残った言葉は『必ず挑戦』という言葉です。なぜかという、僕はあまり挑戦をすることが少ないからです。ぼくも、『必ず挑戦する人』になりたいです。」など、より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力していこうとする気持ちの大切さに気付くことができた。中学生に向けた時期の6年生にとっては、とても有意義な内容だった。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 導入時、児童にパラリンピックのことを知らせるときには今までのパラリンピックで選手が競技している写真や動画を提示し話し合うことで、様々な障害をもった方々が参加していることに気付くことができるようにした。</li> <li>○ 東京パラリンピックをリアルタイムで視聴し、応援する機会をつくることで、スポーツを通して障害をもっている方々に対しての理解をより深めることができるようにした。</li> </ul>
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今回の実践を通して、低学年のときから、計画的に障害者理解を行うことで、高学年に向けてスポーツを通じた共生社会の構築について考える基礎ができると感じた。次年度以降は、学校全体を通して、段階的・計画的に指導計画を立て、実践に取り組むことで、今以上に効果的に学習を行うことができると感じた。</li> </ul>

9 来年度以降の 実施予定	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 冬季北京オリンピック・パラリンピックが開催予定のため、東京オリンピックと同じように、アスリートたちの活躍や頑張りを校内で発信し、子ども達に伝え、活動を継続させていきたい。</li><li>○ 次年度は、感染症予防対策等を行い、可能であれば、学校の近くに北九州市障害者スポーツセンター「アレアス」があるので、施設の指導者に指導を依頼したり、道具の貸出を利用したりして、さらに効果的に学習を行えるようにしたい。</li></ul>
------------------	---